



大間知花南さん  
(内海中2年)

菊池亜美花さん  
(緑小6年)

増田朝海さん  
(城辺小5年)

## 2/16 国土交通事務次官賞など町内で3人が受賞 土砂災害防止に関するコンクール

平成29年度土砂災害防止に関するコンクールの受賞者が発表され、愛南町から作文部門で大間知花南さん(内海中2年)と菊池亜美花さん(緑小6年)が国土交通事務次官賞を、増田朝海さん(城辺小5年)が愛媛県砂防協会会長賞を受賞しました。

大間知さんは「自分が書いた作文が啓発につながればうれしい。これからも土砂災害について考えていきたい」と話しました。

コンクールは、国土交通省と愛媛県が小・中学生に土砂災害の防止についての理解と関心を深めてもらうため、毎年実施しているもので、今年は4,348点の応募がありました。

## 2/22 野球合宿の合間におもてなし 婦人会が炊き出しで部員らは笑顔

愛南町で2月17日(土)から野球合宿を行う同志社大学硬式野球部の部員らをねぎらおうと、愛南町連合婦人会による炊き出しが南レク城辺球場で行われました。

この日は、ぜんざいやじゃこ飯、ちらし寿司がふるまわれ、部員らは英気を養いました。婦人会の中平道代副会長が、「私たちも毎年楽しみにしている。料理はたくさん作ってきたのでお腹いっぱい食べていただきたい」と話すと、野球部の福島孝輔主将は、「毎年、町の皆さんに温かく迎えていただき、良いキャンプができています。今年のチームの目標は日本一。体力を付けて一年間頑張りたい」と意気込みを語りました。

同大野球部は、監督・部員・マネージャーなど総勢106名で2月25日(日)まで合宿を行いました。



あんなことや、  
こんなこと—TOWNコミュ

## 本日!海日和!! vol.89 「サンゴの住人 その3」



キクメイシに住むクロスジギンポ

キクメイシも愛南町に多く生息しているサンゴの仲間である。漢字では「菊目石」と書く。模様が菊の花に似ていて、石のように硬いことから、この名前がついた。前号で紹介したミドリイシの仲間よりも成長が遅く、岩のような塊になって成長する。見慣れないとサンゴと分らないかもしれない。

このサンゴに開いた穴に住処にしているのがクロスジギンポである。体長10cmほどの細長い体をしており、一本の黒い縦縞があるのが特徴である。

他の魚の体を掃除するホンソメワケベラに擬態しているといわれている。体の掃除をしてもらおうと近づいてきた魚のウロコやヒレを食いちぎって食べてしまう。穴の周りを泳ぎながら、騙されて近づいてくる魚を待っている。擬態がばれて危険が迫ると素早く穴に逃げ込む。ここに逃げ込めば、大きな魚も手出しができない。

そう言われると悪そうな目つきをしているように見えるのは私だけだろうか。

(撮影地：鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照 ともてる

## 2/22 婦人会での取組が評価 玉田和美さん（増田） 婦人会活動振興功労者表彰

婦人会の活動に積極的に取り組み、他の会員の模範となるような実績を積んだことが評価され、愛南町連合婦人会（森岡真由美会長）の玉田和美さんが、愛媛県知事から婦人会活動振興功労者として表彰を受けました。

玉田さんは森岡会長とともに愛南町役場を訪問し、清水雅文町長に表彰の報告を行いました。50年以上にわたり婦人会活動に取り組み、地域や学校での婦人会活動に参加してきたという玉田さんは、「これからも微力ながら婦人会活動に協力していきたい」と意欲を述べました。



## 2/28 備えることの大切さを学ぶ 震災対策の講座開催

東日本大震災における被災地での状況について学ぶことで、これからの地域の震災対策に活かしてもらおうと、御荘文化センターで「平成29年度なんぐん地域ケア研究会大会」（なんぐん地域ケア研究会主催）が開催され、福祉・医療・行政関係者などおよそ240名が参加して講師の話に耳を傾けました。

講座では、宮城県の特別養護老人ホームから講師を招き、施設の立場から見た被災時の状況等について説明がありました。講師の川原伸章さんは、「施設を福祉避難所として登録しておくことや、公用車は災害時緊急車両として指定を受けておくことなど、有事に備えておくことが大切」と話し、佐々木恵子さんは、「想定外の状況で何が最善かを職員が考えて行動できるよう、日頃から避難訓練や職員への研修を重ねている」と話しました。



## 3/4 たき火でこんがり焼き芋体験

様々な体験を通じて子どもたちにたくましく育ってほしいと、山出憩いの里温泉で「たき火で焼き芋体験」（主催：南宇和障害者の社会参加を進める会・愛南町の未来を創るプロジェクト）が行われました。

町内の小学生12人が参加し、集めた木の葉や木の枝にマッチで火をつけて、たき火を楽しみ、こんがり焼き上がった焼き芋をおいしそうにほうばりました。

松田昂流くん（城辺小2年）は、「マッチを使うのは初めてだったけど、火をつけることができ嬉しかったです」と笑顔をみせました。

